

III その他注意すべき病害虫等

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病害虫名	地域
さとうきび	サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ) コガネムシ類(アオトウガネ・ケブカアカチャコガネ) 野そ	宮古群島 宮古群島 宮古群島
きゅうり	べと病	沖縄群島
かぼちゃ	モザイク病	宮古群島 八重山群島
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	沖縄群島
さやいんげん(施設)	チャノホコリダニ	八重山群島
マンゴー	病害の防除対策 害虫の防除対策 チャノキイロアザミウマ	宮古群島 宮古群島 八重山群島
小ギク	黒斑・褐斑病	沖縄群島

IV 12月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

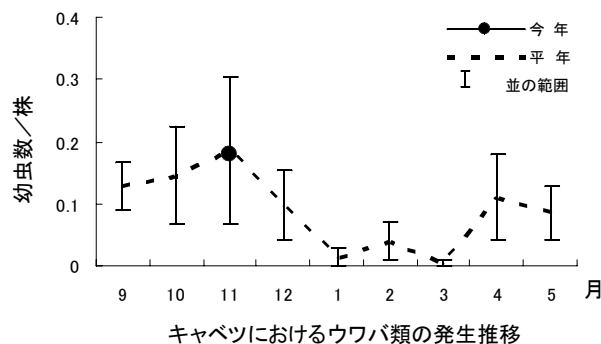
沖縄群島

1 キャベツ

(1)ウワバ類

発生程度 : 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.18頭(前年0.2頭、平年0.19頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 圃場周辺雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。
- 幼虫は外葉裏に多いことが多いため、葉裏にも薬液が十分かかるように留意する。

2 きゅうり(施設)

○べと病の防除対策について

- a 11月下旬の調査の結果、一部圃場で発病葉率9.7%(前年0%、平年0.5%)と高かった
- b 本病害は、冬季に向け増加する傾向にある。
- c 老葉や病葉は除去し、ビニール袋等に入れて圃場外に持ち出す。
- d 換気を良くし過湿防止に努める。
- e 肥料切れしないよう適切な施肥を行う。

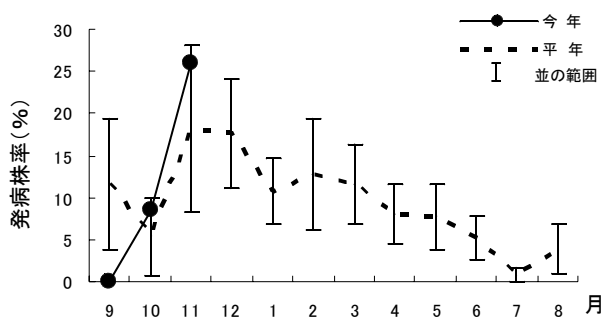
3 にがうり(施設)

(1)モザイク病

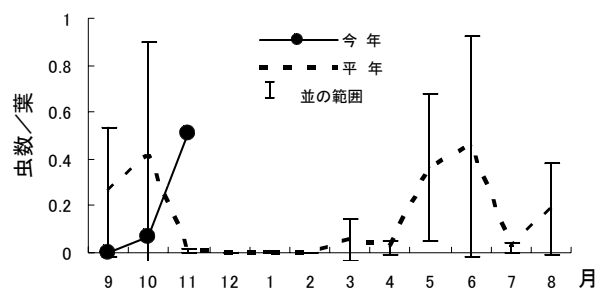
発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 11月下旬の調査の結果、発病株率は26.0%(前年11.2%、平年18.1%)と平年並であった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.51頭(前年0頭、平年0.01頭以下)と平年より多かった。
- c 気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は50%の確立で高い見込みと予測されているので、今後もアブラムシの発生が続く可能性が高い。



にがうり(施設)におけるモザイク病の発生推移



にがうり(施設)におけるアブラムシ類の発生推移

防除上注意すべき事項

- a 本病はアブラムシ類によって媒介されるので、飛来侵入防止のため、近紫外線除去フィルムの展張、畦のシルバーマルチ被覆、側窓等の防虫網(0.8mm以下)設置等を行う。
- b アブラムシ類の発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- c 黄色粘着テープ等によりアブラムシ類を早期発見し、早期防除に努める。
- d 罹病株は見つけ次第ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。
- e 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- f 草勢が良いと病徴が軽くなることがあるため、やむを得ず発病株を残す場合は肥培管理を適切に行い、収穫管理業は最後に行う。

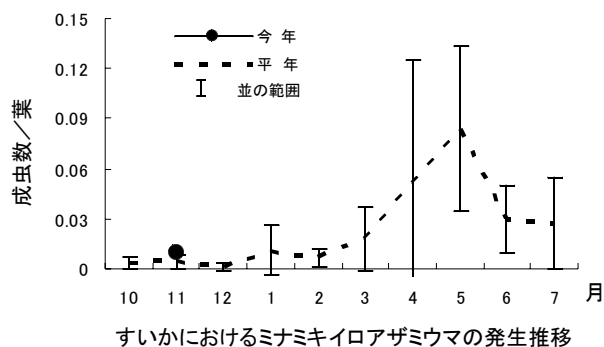
4 すいか

(1) ミナミキイロアザミウマ

発生程度 : やや多

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.01頭(前年0.03頭、平年0.01頭以下)と平年よりやや多かった。
- 一部圃場で多発生がみられた。



防除上注意すべき事項

- 植付時は健全苗を選定し、育苗施設内で薬剤防除後に本圃へ導入する。
- 成虫の飛来侵入を防ぐため、入口、天窗、側窓には防虫ネット等を張る。
- 施設外に露出した蔓や葉は本種の繁殖場所となるので、すそや側窓は閉じる。
- 青色粘着テープ等により早期発見し、早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

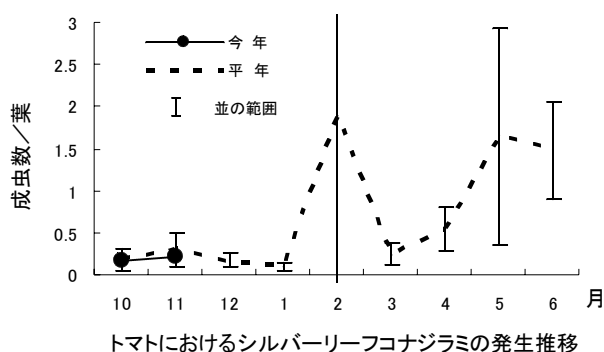
5 トマト

(1) シルバーリーフコナジラミ

発生程度 : やや多

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.22頭(前年0.15頭、平年0.30頭)と平年並であった。
- 気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は高い確率が50%と予想されており、本種の発生が助長されやすい。



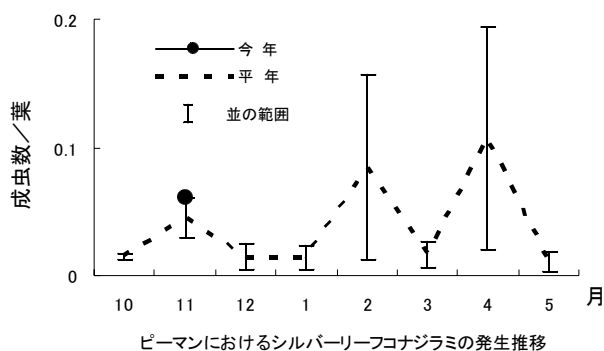
防除上注意すべき事項

- 本種は果実の着色異常を引き起こすので、出入り口の防虫ネットは二重にするなどして施設内への飛来侵入を防止する。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 黄色粘着テープ等により早期発見し、早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成18年度病害虫発生技術情報第2号(平成18年9月1日付け)参照。

6 ピーマン

(1) シルバーリーフコナジラミ 発生程度： やや多 予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.06頭(前年0.05頭、平年0.04頭)と平年並であった。
- 気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は高い確率が50%と予想されており、本種の発生が助長されやすい。



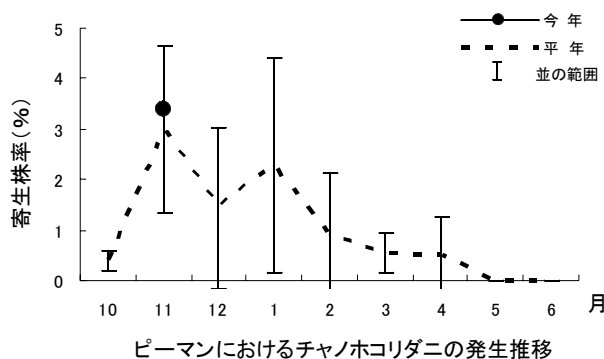
防除上注意すべき事項

- 出入口の防虫ネットは二重にするなどして施設内への飛来侵入を防止する。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 黄色粘着テープ等により早期発見し、早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成18年度病害虫発生技術情報第2号(平成18年9月1日付け)参照。

(2) チャノホコリダニ

発生程度： 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、寄生株率は3.4%(前年2.1%、平年3.0%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 摘葉や収穫後の残渣等はビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。ただし、被害部位の除去は、管理作業の最後に行う。
- 繁殖が早く、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- 生長点付近の葉の隙間や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、散布むらのないよう丁寧に散布し、同系統薬剤の連用は避ける。
- 平成18年度病害虫発生予報第8号(平成18年11月1日付け)の表紙参照。

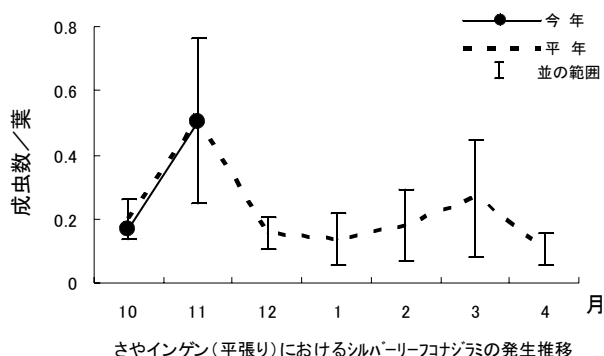
○ミナミキイロアザミウマの防除対策

- 11月下旬の調査の結果、一部圃場で多発生がみられた。
- 本種は芯葉部の萎縮等を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、成虫の飛来侵入を防止する。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 青色粘着テープ等により早期発見し、早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

7 さやいんげん(平張り)

(1)シルバーリーフコナジラミ 発生程度 : やや多 予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.50頭(前年0.40頭、平年0.51頭)と平年並であった。
- 気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は高い確率が50%と予想されており、本種の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

- 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットは二重にするなどして施設内への飛来侵入を防止する。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 黄色粘着テープ等により早期発見し、早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 平成18年度病害虫発生技術情報第2号(平成18年9月1日付け)参照。

8 小ギク

○黒斑・褐斑病の防除対策

- 発病初期の防除を徹底する。
- 発病葉および摘葉等による残渣は、圃場の外に持ち出し処分する。
- 圃場は多湿にならないように排水に努める。
- 肥料切れや窒素質肥料の多用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- 敷きわら等により、水滴のはねあがりを防ぐ。



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0019 名護市大北1-16-15 TEL 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157